

# 「九条の会さかど」ニュース 2018年7月26日 第99号

http://www.9jo.jp/sakado sakado@9jo.jp 連絡先 282-4968 (FAX 兼用) 小林

## 「語り継ぐ会」を機会に語り継ぐ

## 9条を守る請願、不採択

北大塚 武井 誠

8月26日(日)に坂戸駅前集会で開催する「戦争を語り継ぐ会」で、元町の関口久美子さんが「母から聞いた坂戸のあの頃」のお話しを、石井の松本仁さんが「防空壕と戦後の飢え」と題してお話しし、紙芝居ボランティアグループ「あじさいの会」の皆さんが、今年も「平和紙芝居」を上演します。

関口さんは、今年の語り継ぐ会で平和紙芝居を上演した折り、坂戸生まれ坂戸育ちの86歳になる母だけさんから戦争の頃の話聞いたことがあると話したのが切っ掛けで、今回の語り部を引き受けてくれました。

小学生だったたけさんの二人の兄が出征した時のこと。たけさんのお母さんは、「何でもいいから命だけは持って帰ってきて」と話していたそうです。そんな母親を見ているので、たけさんは教科書に載っていた「水兵の話」は嘘だと思ったとのことでした。

小学校はありましたが、勉強ではなく、兵隊を出した家に行って、勤労奉仕というのか手伝いをさせられた、イナゴ採りもさせられたそうです。

「今、母からあの当時のことを改めて聞いていますが、こんな話でいいのでしょうか？」と関口さん。それが、“子や孫の世代に語り継ぐ”ということなのです。

松本さんは、終戦当時4歳なので戦争そのものについてはあまり覚えていないが、空襲を避けて静岡に疎開してから防空壕と、食糧難でお腹が空いてばかりいたことについてお話ししたいとのことでした。

戦争については、むしろ戦後、小学校での映画教室で、『ビルマの堅琴』や『二等兵物語』や『人間の条件』を見て、戦争はこんなにきつかったんだと思い、大人になってからの『大地の子』では、自分と同年代を過ごしていた主人公に思いを馳せたそうです。松本さんも当時のことを子や孫に、話していなかったそうです。

6月の坂戸市議会に「海外で戦争させない坂戸市民の会」準備会から11の団体・個人の賛同署名を添えて提出された「立憲主義を堅持し、憲法9条を守り、戦争しない日本を目指すことを求める意見書の提出に関する請願書」について、賛成討論を行ないました。

.....

2014年7月1日、従来の憲法解釈を変え集団的自衛権を認めるという閣議決定がなされました。そののちの国会における安保法制の審議の中で示された、新安保3要件のうちのひとつ目「我が国に対する武力攻撃が発生したこと、または我が国と密接な関係にある他国に対する武力攻撃が発生し、これにより我が国の存立が脅かされ、国民の生命、自由及び幸福追求の権利が根底から覆される明白な危険があること」について、誰が、いつ、どのような基準で行なうのかが明確にされないまま2015年9月17日の特別委員会で、総括質疑も行なわれず、委員でない与党議員や秘書らが乱入し、鴻池委員長を囲んだ中の採決となりました。

17日の議事録には、「(発言するもの多く、議場騒然、聴取不能) (委員長退席)」としか、書かれていませんでした。野党議員の誰も聞き取ることのできないうちに、テレビでは法案が「可決した」というテロップが流れました。

特別委員会が解散した後、国会議事録が加えられました。「(聴取不能)」の後、未定稿にはなかった次の文言が加えられています。「委員長復席の後の議事経過は、次のとおりである」「速記を開始」「質疑を終局した後、いずれも可決すべきものと決定した。なお、(安保法制について)付帯決議を行なった」。

暴挙と言わざるを得ません。

## 戦後73年 平和を心に刻む

### 九条の会さかど 戦争を語り継ぐ会

8月26日(日)13時30分～16時 坂戸駅前集会施設2階  
母から聞いた坂戸のあの頃(元町 関口久美子さん)、  
防空壕と戦後の飢えと(石井 松本 仁さん)、平和紙芝居など

### ヒロシマ市民の描いた原爆絵画展

8月25日(土)11時00分～19時 坂戸市文化施設オルモ2階  
8月26日(日)9時30分～18時 坂戸市文化施設オルモ2階  
原爆絵画展坂戸・鶴ヶ島地区実行委員会(049-289-2527 武井)

その年の12月12日から南スーダンへ派遣されている自衛隊が「駆けつけ警護」と「基地の共同防衛」の新任務を負いました。そして、戦闘行為に巻き込まれていたにもかかわらず、その日報が隠されていたことが、この間明らかになったところです。

今回の憲法9条改憲の動きは、こういう流れの中で行なわれようとしているものであり、立憲主義を堅持するという観点からも、断じて容認できません。

私は「憲法9条を守る」という請願者の主張に賛成ですが、もちろん（反対討論にもありましたが）自衛隊のあり方、国際情勢の分析、我が国の外交・防衛のあり方、9条の解釈などについて様々な議論があることは承知をしています。

しかし、ただいま申し述べましたように、安倍政権によって憲法解釈がねじ曲げられ、大多数の憲法学者が、その解釈に疑義を呈する中、立憲主義が蹂躪されて安保法制が成立したとされる、そういう流れの中での、あたかもその総仕上げのような9条改憲は絶対に許されません。前のめりにならず、時計の針を、あの強行採決前にまで戻すべきであると考えます。

そういう意味で今、国に対して意見書を提出する意義は大きいものと考え、請願に賛成します。

採決の結果、賛成6、反対13で、9条を守る請願は不採択となりました。残念です。

## 【投稿】視点を替えた取り組みを

元町 新井竹子

九条の会さかどが13周年を迎え、記念講演会を企画した。何とか大勢の方に来てほしいとチラシなど何回も配ったり知り合いなどに声かけをして、6月10日当日となった。なんと48人の参加が得られた。これは今までになかった人数である。

講演者は54歳の女性、遠藤美幸さん。演題は「いま、戦後世代が『戦場体験』を受けつぐということ」。内容は、彼女が大変な努力を重ね現地を訪ねたりもしたという“ビルマ戦線における拉孟全滅戦”のこと。ここでは、日本軍が全滅するのであるが、中国人は日本人の3倍もが死亡したのだという。

その場所へ生き残った日本兵たちが、小学校を建てて贈るのであるが、未だにその場所への慰問も遺骨の収集も許されないのだという。

日本兵のしたことがいかに酷いものであり、受けた方は未だに許せないことの証だ。

事実を聞きながら、視点を替えた取り組みの必要性をつくづくと思った。

## 市民活動フェアで感じたこと

栄 平瀬敬久

少し時間が経ちましたが、今年も「九条の会さかど」は入西地域交流センターで開催された「発見！市民活

動フェア」に出展しました。開催は例年どおりの3月で、今年は3月10日（土曜日）の開催でした。

「九条の会さかど」での例年との違いは、毎年展示パネルの説明員をされている石川さんが今年は都合により欠席されたことでした。その関係で展示パネル（写真や説明文）が過去の本会の「戦跡めぐり」の写真と説明資料だけではなく、新たに大山さんが「戦跡めぐり」の当日説明のため作成した資料をベースとした展示資料が加わりました。これを作成するために大山さんは何日もかけ、そして奥様も手伝われたとのこと。残念ながら当日、大山さんは別件のため、参加できませんでしたが、当日の午後には奥様が受付に入ってくれました。

大山さんの作成した資料は、旧陸軍坂戸飛行場関係の内容が多く、その点は例年の展示資料に近い内容でしたが、関連文献からのイラスト資料や表も掲載しており、なかなか味のある、大山さんらしい資料でした。多くの方も足を止めて展示を見ておられました。

残念だったのは、例年は多くの児童・生徒が保護者とともにこの「発見！市民活動フェア」を見学に訪れますが、今年は他の行事と重なったのか、フェアの会場全体を通して、児童・生徒の見学者数が少なかったこと。イメージ的には来場者が前年の半分ほどに感じました。

一方、受付は午後には大山夫人が応援に入ってくれたものの、ほとんどは権平さんと私のみ。私も席をはずすことが多かったため、隣のブースの説明員でもある岩淵さんやキリカさんが応援に入ってくれたとはいえ、前年と同様の来場者数であればとてもさばききれなかったということも感じました。

そんな中、「9条がこのままでよいかどうか」のアンケートはブースに来てくださった全員が、そして前年と同じくらいの方が「このままでよい」を選択し、「このまま」と「変えたほうが」は34対0となりました。



また、「9条改憲NO！3,000万署名」にも多くの方が署名協力してくださったことは、多くの方が9条改憲に反対の意思を持っておられるんだということを改めて感じました。

来年も「発見！市民活動フェア」は開催が決まっており、本会もまた出展予定です。来年に向け、今年こうすればよかったと感じた点を改善し、さらにいい展示ができればと思いました。掲示資料を作成してくださった大山さん始め、関係者の方々、誠にありがとうございました。

## 今後の運営委員会（会員なら誰でも参加できます）

8月23日、9月27日、10月25日（第4木曜日10時～12時）  
会場は坂戸市役所隣の勤労女性センター本館談話室